

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成19年10月26日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4078700210
法人名	社会福祉法人 朋寿会
事業所名	グループホーム 夢想園
所在地 (電話番号)	福岡県みやま市瀬高町松田481 (電話) 0944-63-2242
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成19年9月20日

## 【情報提供票より】(平成 19年 8月 24日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 1月 6日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	8人, 非常勤 1人, 常勤換算 8.6人

### (2) 建物概要

建物形態	併設 <del>(単独)</del>	<del>(新築)</del> 改築
建物構造	鉄筋コンクリート造り	
	1 階建ての	1 階 ~ 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費	有
敷金	有( 円)	<del>(無)</del>	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) <del>(無)</del>	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり		円

### (4) 利用者の概要 (平成 19年 8月 24日 現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.6 歳	最低	83 歳	最高	97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉山医院・山内医院・柳病院・新船小屋病院・大田歯科
---------	---------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

のどかな田園地帯にあり、居室や浴室の窓からは、遠くの間々や風向明媚な自然が望まれ心癒される環境に恵まれている。管理者は、グループホームの意義を理解し、心地よい生活の実現・継続の為に現場に即した理念を掲げ職員への共有が出来ている。職員は、常に利用者寄り添い共に支えあう中で利用者の心身の状況把握を行い危険のないように介護にあたっている。ホーム日誌・生活介護記録・生活リズムシート・ケアプラン実施表などがあり、利用者一日の生活を細やかに記録することで、ケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。また、有事の際は、母体施設の特別養護老人ホームに、直通で連絡できる緊急ボタンが設置され応援を依頼することが出来るなど、安心して暮らせるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価において、開かれたホームとなるよう運営推進会議の取り組みや継続的な研修の体制等があげられていた。今までに3回の運営推進会議を開催している。外部研修に参加し、月に1回の職員会議において伝達研修を行っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の評価に関しては、全職員で評価項目の読みあわせを行い管理者が記入した後、職員に提示し意見を求め追加・修正を行っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	今までに3回の運営推進会議を開催している。市役所職員、老人クラブ、女性クラブ、民生委員、家族代表の参加で、外部評価の報告や行事計画及び実施状況、利用者の暮らし等報告を行い、意見を聴き、グループホームを理解してもらおうと共にサービスの向上に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	重要事項説明書に苦情・相談窓口を明記し、入居時に説明を行っている。面会時に意見や不満などを聞いて、苦情や相談があった時は、迅速に対処している。介護用品給付事業に対する相談があった時は、市役所に相談行き職員に来てもらい家族にわかり易く説明してもらった。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	小学校の運動会や町の文化祭に出かけて行ったり、併設のデイサービスに週に1回参加され地域の方との交流を図っているが、地域の一員としての活動や交流には至っていない。自治会等に参加され、地域の行事や奉仕活動等に利用者と共に参加し地域住民の一員としての取り組みや、機関紙を配布するなどして事業所の役割を理解していただき地域の方々が気軽に立ち寄ってくれるような働きかけを期待する。

## 2. 調査結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「明るい笑顔・感謝の気持ち・ユーモア・ゆっくり話を聞く・ていねいな言葉」を理念に掲げられている。毎日を楽しく心地よい生活を維持していくための家庭的な理念になっているが、地域との関係性を反映できていない。	○	「利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けること」を支えていく地域密着型サービスとしての役割を目指した内容となるよう、今一度理念の見直しを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関やスタッフルーム、フロアーに掲示され、朝のミーティングで毎日唱和し日々の生活の中で実践に向け取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校の運動会や町の文化祭に出かけて行ったり、併設のデイサービスに週に1回参加され地域の方との交流を図っているが、地域の一員としての活動や交流には至っていない。	○	自治会等に参加され、地域の行事や奉仕活動等に利用者と共に参加し地域住民の一員としての取り組みや、機関紙を配布するなどして、事業所の役割を理解していただき地域の方々が気軽に立ち寄ってくれるような働きかけを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を受けて改善が行われている。今回の評価に関しては、全職員で評価項目の読みあわせを行い管理者が記入した後、職員に提示し意見を求め追加・修正行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今までに3回の運営推進会議を開催している。市役所職員、老人クラブ、女性クラブ、民生委員、家族代表の参加で、外部評価の報告や行事の予定・報告及び利用者の状況報告等を行い、グループホームを理解してもらおうと共にサービス向上に取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険の各種サービスや生活保護関係など、随時相談に出かけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在対象者がいないこともあり、利用者、家族への説明等は行っていない。パンフレットを準備し、職員に対する勉強会を行っている。今後、研修へ参加したいと思っている。	○	研修に参加し制度を熟知され、対応が必要と思われる利用者がいる場合、または家族から質問があった時など、職員がいつでも説明出来るよう制度の理解を深めてほしい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	生活介護記録に、利用者の1日の生活が細やかに記録され必要に応じて家族に説明を行っている。金銭管理に関しても、面会時に出納帳の確認を行い家族・職員のサインがある。面会が少ない方には随時電話や手紙で報告ができています。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情・相談窓口を明記し、入居時に説明を行っている。面会時に意見や不満などを聞くようにし苦情や相談があった時は、迅速に対処している。介護用品給付事業に対する相談があった時は、市役所に相談に行き職員に来てもらい家族にわかり易く説明してもらった。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動時には、管理者と新任者が重なる勤務期間をつくって、利用者との馴染みの関係づくりをしダメージの軽減を図っている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用にあたっては、性別・年齢によって採用対象から除外していない。30代から60代までの職員が在籍している。60代の職員は、利用者の好きな懐メロの担当であり、料理の得意な職員はおやつ作りを担当してもらったりなど、個々の趣味や能力を発揮できる場が与えられている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者は、身体拘束等の内容を理解し、ホーム内での会議等の中で人権学習が行われ、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。特に、笑顔・挨拶・感情のコントロール等厳しく指導している。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加され、月に1回の職員会議において伝達研修を行っている。宮崎で行われた九州大会のグループホーム部会や認知症・医療系の研修に参加されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームとの交流は行われているが、地域のグループホーム協議会がないとの事で、他同業者との交流が出来ていない。今後は、同業者との交流を持ちたいと考えている。	○	県のグループホーム協議会等に加入され、同業者との交流を通じてサービスの向上に取り組まることが望まれる。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学は、随時行っている。ショートステイや体験入所等、利用者や家族が納得され安心してサービスの利用が出来るような体制が出来ている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意な料理や、格言・神仏・礼儀作法等、現代人が忘れてかけている日本の心を学ばせていただいている。職員は一緒に過ごす事により喜怒哀楽を共にし、人生の先輩として利用者から学んだり、支え合う関係が築けている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしや会話の中で、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努め、「気持ちよか」「うまかった」などの言葉や表情、仕草で本人の思いや願いを汲み取るよう心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時や面会時等に本人・家族の希望を確認し、ケアプランを作成している。ケアプラン実施表があり毎日の実施記録、1ヵ月ごとの評価記録が記入されている。記入漏れがないように当番制にすることで全職員が個々のケアプランの周知、徹底が出来ている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月毎に介護計画の見直しが出来ている。利用者・家族の希望、状態に変化が生じた場合には、その都度話し合い介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族がいつでも宿泊できる和室を準備したり、協力医療機関と契約し医療連携が出来ていて、利用者が安心して暮らせる体制となっている。同一敷地内にあるデイサービスを週に1回利用している。地域の独居の高齢者を招いての食事会を計画している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の要望に応じて、それぞれのかかりつけ医があり、協力医療機関から2週間に1回の往診がある。家族が病院受診に付き添えないときは、職員が付き添い受診結果は随時家族に報告している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在までに終末期を迎える方はいないが、家族からの依頼や要望があれば、対応できる体制が出来ている。重度化した場合は、本人や家族の意向を確認し医療との連携を図りながらその都度方針を共有していく。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報を守るように掲示板や会議、話し合い等で日頃から周知徹底している。ホームの基本理念にも掲げ、排泄場所や居室に入る際の声かけ、さりげないトイレ誘導等プライバシーを配慮したケアを行っている。日常的な言葉かけも落ち着いた態度で丁寧に語りかけている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	昼食時、何度も食事を中座され居室に戻られては食堂にきて食事を摂られていたが、職員はその都度穏やかに対応されていた。また、個人の行動を日々観察し、一人の時間を大切に居室にてくつろがれることを好む利用者に対しても可能な限りその時々希望に添うよう支援している。		
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	使い慣れた箸や湯飲みを使用している。また、摂取状態に応じて、ミキサー食、刻み食などで対応している。糖尿の方に対しては、医師、家族、職員間で話し合い、食事の量やおやつを調整することで楽しんで食事をしていただけるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日おき週3回の入浴支援を行っている。時間は午後2時半ごろからを予定しているが、本人の希望に応じて午前の時もある。拒否される方は、無理強いせず、コミュニケーションやスキンシップを工夫し、入浴してもらうよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	信仰心のある2名の方が、敷地内のお地藏さんに毎日のお参りをされている。雨の日は、居室や和室の仏壇等に手を合わせられている。お供え用の花を栽培し、お参りの時利用者と一緒の花を摘んで供えている。その時々、その方が好むことを見逃さず対応するようにしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域の行事やお祭りに出かけたり、赤米の田畑や桜、ひまわりなど四季折々の花見に行っている。また、日々の日課の中では敷地内のお地藏さん参り、併設のデイサービスへの参加、近くのスーパーや「ゆめタウン」まで買い物に行くなど日常的に支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず玄関に鈴をつけ、開いたときはすぐに職員が気が付くように工夫している。職員は常に利用者の動きを見守り、2時間ごと(夜間は1時間)の所在確認、状況把握を行い危険の無いように介護にあたっている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急連絡網やマニュアルが作成され、避難場所、手順等を職員は理解している。また、有事の際は、母体施設の特別養護老人ホームに直通で連絡できる緊急ボタンが設置され応援を依頼することが出来る。昼間の避難訓練は行っているが、夜間想定訓練は10月に予定している。		
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を考え、治療食が必要な方は、食事の量やおやつで調整している。日常生活記録表の中に、食事摂取量、水分量の記録があり全職員が把握出来ている。また、夜8時をお茶の時間と決めて、お茶や生姜湯など水分補給をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間などに、季節の花や観葉植物、季節感のある置物や飾りがある。食堂兼居間には、ソファのコーナーがあり利用者が思い思いにくつろげる空間となっている。居室や浴室の窓から、遠くの間々や田園風景が広がり落ち着いたある景観となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室のベッドやタンス以外の必要物品は、すべて本人・家族が持ち込まれた物で、利用者のなじみのある飾り物、思い出の写真、カレンダーなどを持参され、居心地よく過ごせる居室となっている。</p>		